



休み中に読んでほしい本 第2号

成瀬高校では毎年小冊子「夏休みに読んでほしい本」を1年生の皆さんにお配りしていますが、今回、先生方の協力を得て、そこから抜粋し、新作も含めWeb版で再開の日まで定期的にお届けすることにしました。

『対訳 21世紀に生きる君たちへ』 司馬遼太郎著 ドナルド・キーン監訳 朝日出版社

現在、世界の人々が新型コロナウイルス(=COVID-19)という共通の危機に直面しています。この発生源は、武漢の魚市場(wet market)ではないかとの説がありますが、実は、環境問題と密接な関係があります。グローバル化をもたらす経済効果とは裏腹に、原生林の伐採(logging)、都市化(urbanization)による野生動物(wildlife)の生息(natural habitats)環境の減少によって、「野生動物から人間への感染」が加速したことによる、グローバル資本主義の負のコストだと言われています。コロナに限らず、世界の約75%の感染症が”zoonotic”と言われる野生動物由来の感染症で、年に10億人の人が命を落としているそうです(国連調査結果より)。新型コロナは、その最たるものです。

さて、ここで紹介する本は、司馬遼太郎さんが小学6年国語教科書のために書き下ろした作品です。司馬さんの自然を敬う気持ちとこれからの社会を担う若者に読んでもらいたいとの思いで書かれました。ドナルド・キーンさんの英訳と照らし合わせて読むと面白いと思います。英文は、英検準2級程度のレベルです。

『戦争は女の顔をしていない 1巻』 小梅けいと作画 S・アレクシエーヴィチ原著 KADOKAWA

ノーベル文学賞作品と聞くと、敬遠しがちですが、今回紹介するのは、「漫画」です。ウェブの漫画サイト「コミックウォーカー」で配信されたのを機に、話題になりました。10代の読者層を意識した絵柄(小梅けいと=『狼と香辛料』作家)で、「活字だけでは届かない読者に作品が届く」よう工夫されています。無料で配信されている巻がありますので、是非覗いてみて下さい。

原作は、2015年ノーベル文学賞を受賞したベラルーシの女性ジャーナリストのノンフィクション。第2次世界大戦に従軍した旧ソ連の女性500人の証言を基に書かれました。岩波現代文庫から邦訳がでています。(続巻予定)